

平和

中学校 高校
社会 地歴 総合

NHKスペシャル 58分

(2005年放送)

終戦60年企画 そして日本は 焦土となった～都市爆撃の真実～

この番組の良さ



なぜ都市爆撃が行われたのか

第二次世界大戦では、空からの爆撃で都市が戦場となり、世界で百万人を超える市民が犠牲になりました。中でも被害が大きかったのは、ドイツのドレスデン空襲と、終戦まで5か月に及んだ日本焦土作戦でした。目標を限定した精密爆撃路線が否定され、国際法が禁じていた都市への無差別爆撃が拡大していった経緯を、米軍側の資料と元兵士の証言で描きます。

国際法の存在

第一次世界大戦以前から市民への爆撃を禁止する空戦法規がありました。これを最初に破ったのがドイツと日本でした。その爆撃を痛烈に批判したアメリカも、戦争の早期決着のために市民への無差別都市爆撃を計画しました。この番組は、戦争終結の手段としての都市爆撃や、国際法との関係について考えるきっかけとなります。

番組活用のポイント

都市爆撃の作戦の詳細を知ることができる

第二次世界大戦中、史上最悪の都市爆撃によって40万人以上の日本の市民が犠牲になりました。アメリカ軍の対日爆撃作戦文書には、「58万4千人を焼き殺す」「地獄と化す」「今後の戦いの基準となる」などと記されています。アメリカは、日本の大小さまざまな180の都市の航空写真をもとに、爆撃エリアを綿密に計画しました。都市爆撃を実施したアメリカ軍の資料から、爆撃計画とその結果もたらされた大惨事を学び、平和学習の一環にすることができます。

都市爆撃が激化した歴史から考える

1922年、「市民を戦争に巻き込んでほしくない」という考えから、イギリス・アメリカ・日本など6か国の代表がオランダのハーグに集まり、戦争のルールを話し合いました。そこで合意された空戦法規案には「市民への爆撃の禁止」「無差別爆撃の禁止」がうたわれました。しかし1930年代、ナチス・ドイツと日本がまず都市爆撃を行い、国際的に非難されます。第二次世界大戦では連合軍が、ドイツ国民の士気をくじくためドイツ東部のドレスデンに無差別爆撃を行いました。アメリカは、日本への無差別爆撃をイギリスから勧められたものの、当初は反対していました。しかし、戦争の早期決着へと戦略を変更、日本が戦場で行った残虐行為は許せないという意識も手伝って、市街地を標的とする無差別爆撃に踏み切りました。交戦国同士の報復が報復を呼び、その結果、主に市民が犠牲者となる都市爆撃が激化していったのです。戦争は加害者も被害者も深く傷つけるという事実を学ぶことができます。

学習展開例

対象校種：中学校 授業時間 100分



宮古島市立
下地中学校
教諭 座間味浩二

新着

戦争における国際法はなぜ破られ どういう悲劇を生んだのか

平和

時間配分	学習活動	教師の支援
5分	①第二次世界大戦の起因から終戦までの過程を学習する。	○教師が「戦争はなぜ起きて、どのようにして終わったのか」を説明する。 ※沖縄戦や広島、長崎の原爆投下、学習する都市爆撃にも触れる（どういう人たちがどのくらい犠牲になったのかなど）。
58分	②番組を視聴する。  視聴 さまざまな都市の航空写真。爆撃目標エリアが円で囲まれ、そこに焼夷弾を確実に落とし、全てを焼き払う。  東京大空襲犠牲者の追悼集会。無防備の市民が都市爆撃によって殺された。  東京と富山で二度の空襲を受けた中山伊佐男さん。母と妹の死を目の当たりにした。  爆撃エリア内に民家があり、エリア外に軍事工場があることから、市民を標的としているのがわかる。	○次の点に注意して視聴させる。 ・都市爆撃とはどのような計画だったのか。 ・なぜ、都市爆撃は実行されたのか。 ・爆撃された都市で生き残った人の証言。 ・加害者の証言。 ※上記の点についてメモをとりながら視聴する。
30分	③戦争における国際法について調べる。 ④「都市爆撃は実施すべき」という立場と、「実施すべきでない」という立場に分かれてディベートする。	○調べ学習は、インターネットや図書を使って行わせる。 ○ディベートの立場は、教師が機械的に学級を二分して指定する。
7分	⑤都市爆撃について自分はどうか考えるかを話し合う。	○生徒から意見がなければ、国際法には「犠牲者の保護」「戦闘方法・兵器を規制」するルールがあることを伝える。 ○現在国際法を犯している紛争や戦争があることにも触れる。